

『映像 25 私らしく～初のアルツハイマー病治療薬と共に～』
第 66 回科学技術映像祭
一般部門・長編「優秀賞」受賞のお知らせ

このたび第66回科学技術映像祭において、MBSの下記の作品が優秀賞を受賞しましたのでご報告致します。

科学技術映像祭は、優れた科学技術映像を選奨することで科学技術への関心を喚起するとともに、その普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的として 1960(昭和35)年より開催されています。

【一般部門・長編 優秀賞】

『映像25 私らしく ～初のアルツハイマー病治療薬と共に～』

2025年2月23日(日) あさ5:00～6:00 放送
プロデューサー:橋本佐与子 ディレクター:金咲和歌子



若年性アルツハイマー型認知症の美香さん(60)とレケンビ® 点滴静注(一般名:レカネマブ)

<内容>

大阪市内で1人暮らしをする関田美香さん(60)は若年性アルツハイマー型認知症の患者です。4年前に発症して以来、物事を忘れる記憶障害と、空間などを認識しづらい視覚障害の症状と闘っています。アルツハイマー病は100年以上、根本的治療薬のない「治らない病気」と認知されてきました。ところが2023年、そんな常識を大きく覆す画期的な薬が登場しました。「レカネマブ」です。アルツハイマー病の原因物質を取り除き、病気の進行自体を遅らせることができるかとされています。「レカネマブ」の登場を一番喜んだのは89歳になる美香さんの母・幸子さんでした。美香さんの通院には毎回欠かさず同行し、通院や検査の日程を忘れてしまう美香さんのスケジュール管理をしていて、美香さんの1人暮らしがそろそろ限界なのではないか…と懸念していました。2週間に1度の点滴、安くない治療費用、副作用のリスクもあるなか、美香さんと母・幸子さんはこの新薬に懸けることに。美香さんがレカネマブ治療を開始して、この1月でちょうど1年になりました。親子で取り組んだ治療の効果はでているのでしょうか。治療を続けて変化はあったのでしょうか？主治医から言い渡された意外な診断結果とは？「レカネマブ」はアルツハイマー病患者にとって希望の光なのでしょうか、それとも…。

【受賞コメント】

プロデューサー 橋本佐与子

医療ドキュメンタリーに真正面から向き合うことは一朝一夕にはできません。

番組はアルツハイマー型認知症の実情を知る一助になった作品で

評価いただきましたことに心より感謝申し上げます。

ディレクター 金咲和歌子

アルツハイマー病患者の葛藤。世界初の治療薬の意義とは何なのか。自分なりに真正面から向き合いました。

取材に関わってくださった全ての方に御礼申し上げます。

以上

本件問い合わせ先:コンプライアンス局広報部